

現代韓国語の音韻縮約現象に関する分析
Analysis of Phonological Reduction in Conversational Korean

崔英淑・佐藤滋
Young-Sook Choi and Shigeru Sato

東北大学大学院国際文化研究所
Tohoku University, Sendai, 980-8576, Japan
{yschoi, satos}@insc.tohoku.ac.jp

1. はじめに

語形が辞書上の形式から逸脱し、発音が省略されたり、語形が圧縮されたりすることがあるが、これを縮約という。縮約形は話し言葉の中でよく用いられており、発音の簡素化の努力から生じるものと考えられる。外国人韓国語学習者が韓国語の話し言葉に接した際、困難に遭遇する問題の一つとして挙げられるのが縮約現象の聞き取りである。すなわち、外国語を学ぶ時、学習段階の早い時期から縮約形に慣れる必要があると思われる。外国語学習者が音韻の縮約及びその復元ができるためには、縮約現象の生起に関わる音韻規則の習得が不可欠である。しかし、現代の韓国語の会話データに基づいた縮約現象の統一的な分析はこれまでにない。

そこで、ここでは韓国語において、どのような音韻環境で縮約現象が起こるかを調べるために、会話文に現れている縮約形の用例を分類・整理し、その音の変化の過程を音韻論的に分析する。

韓国語の分析用データとして選択した会話資料は映画シナリオの *Kaykatun Ohwu* (ついてない午後, 1995年)、*Kumhong-a* (クムホンア, 1995年)、*Takte Pong* (ドクタ ボン, 1995年)、*Mwutan-Hoyngian* (無断横断, 1995年)、*Mwuso ui Ppwul-Chelem* (犀の角のように一人で行列, 1995年)、301・302 (1995年)、*Alumtawun Chengnyen Centayil* (素敵な青年ジョンテイル, 1995年)、*Cwumok Halmanhan Yenghwa* (注目すべき映画, 1995年)、*Teylerisutu* (テロリスト, 1995年)、テレビシナリオの *Poko Tto Poko* (もう一度見て, 1998年) など10個の会話資料を選んだ。

2. 縮約の概念及び頻度分布調査

縮約現象は、基本的に互いに接した二つの音節の中ほどに位置する単音が、脱落したり、中間的な音に変化したりして1音節に融合されたもの、もしくはその融合がいくつか重なった結果生じるものである[1, 2]。

韓国の映画・テレビシナリオなどの10個の会話資料で観察された39種の1502個の音韻縮約現象を表1に頻度順に番号をつけて示す。表1で示す資料名の略称には、各題名の初頭文字を使っている。表1を見ると、「母音で終わる名詞+助詞/nun/」の音韻環境で起こる /u/ の脱落現象が325個の頻度で最

も多く現れる。また、/ofidzijo/→/ofidzo/の現象は201個、/boajo/→/bwajo/の現象は157個、/gasi/→/ge/の現象は100個、/gasun/→/gan/の現象は93個、/ai/→/ε/の現象は90個、「母音で終わる名詞+助詞/ul/」における /u/ の脱落による縮約現象は78個、/gadua/→/gawə/の現象は69個、/ijagi/→/egi/の現象は63個、「母音で終わる助詞+助詞/nun/」における /u/ の脱落現象は42個、/gasul/→/gal/の現象は36個、/muasul/→/mwəl/の現象は30個、「母音で終わる名詞+inde/」の環境で起こる /i/ の脱落現象は29個の頻度で今回の調査資料すべてに現れている。なお、これらの音韻縮約現象は調査資料すべてに現れていることから、現代韓国語の中で定着していると考えられる。

3. 音韻論的分析

韓国語の縮約現象は隣接する二つの音節構造と関連しており、韓国語の音節構造はV、VC、CV、CVCの構造である。韓国語の縮約現象は大きく音素の脱落、音節の脱落、融合とに分けられる。

3.1 音素の脱落

3.1.1 母音の脱落

/i/の脱落：表1の番号(2), (14), (16), (26), (28), (29)の6種類の /i/ 脱落現象が267個数えられる。詳しく見ると、番号(2), (16)については用言の語幹末母音 /i/ に接辞 /jo/、/ja/ がついて /i/ が脱落する場合で、222個数えられる。番号(14)は29個見られるが、名詞句内の形態素境界で起こる /i/ 脱落現象である。また、番号(26), (29)においては、名詞内における脱落現象であり、11個数えられる。これに対して番号(28)は形容詞の語幹において起こる /i/ 脱落現象であり、5個観察される。/i/ は韓国語の母音の中で最も開口度が小さいので脱落するケースが多い。この現象は日本語にも見られる[3, 4]。

/u/の脱落：表1の番号(1), (7), (10), (19), (22), (27), (31), (32), (33), (34), (37)の11種類の /u/ 脱落現象が488個数えられる。これらのうち、番号(1), (7), (10), (27)は開音節で終わる名詞、助詞に主格助詞 /nun/・目的格助詞 /ul/ が付く場合における /u/ 脱落現象であ

り、450個の頻度で現れる。番号(19), (22), (31), (37)は名詞内における母音衝突回避による現象で、16個見られる。番号(32), (34)は/na/、/dʒə/に所有格助詞/i/が付いてそれぞれ/ne/、/dʒe/になる現象である。/i/は単母音/u/と/i/からなる母音であるが、/u/の脱落と共に/i/は/na/と接続して/ne/になる現象である。

/u/の脱落：番号(38)は1個のみ観察されたが、韓国語において/u/母音は圓唇後舌母音なので、脱落しにくい。これに対して、/u/は平唇中舌母音なので高い頻度で脱落しやすいと考えられる。

3.1.2 子音の脱落

/h/の脱落：番号(15)において、音節/noh/における終声/h/は、母音音節/a/の前で脱落して/noa/になった後、/nwa/になる現象で23個数えられる。韓国語において、/h/は語頭でははっきり発音されるが、語中語尾では弱まる特徴がある。つまり、/h/で終わる音節の後に/a/、/ə/母音で始まる音節が続くと、弱化して脱落しやすい現象が見られる。

/s/の脱落：番号(24)は8個数えられ、音節/gəs/における終声子音/s/が脱落して/gə/になる現象である。つまり、韓国語において、音節の終声子音が/s/である場合、/s/は脱落しやすい。

3.2 音節の脱落

/i/の脱落：/i/音節の脱落としては番号(20)が15個観察される。この例は名詞/mal/（「言葉」）に断定を表す終止語尾/ija/「だよ」が付いて、/i/音節が脱落する場合である。/malija/においては、母音衝突により/i/音節は/ja/に吸収され、/malja/になる現象である。つまり、/i/は開口度の小さい母音なので脱落しやすい。

3.3 融合

表1の番号(3), (4), (5), (6), (8), (9), (11), (12), (13), (17), (18), (21), (23), (25), (30), (36), (39)などが母音衝突回避によっていくつかの段階を経て起こる融合現象であり、737個数えられる。これらのうち番号(4), (5), (11)は229個の頻度で現れるが、/gəs/（「もの」）の後に助詞/i, un, ul/（「が、は、を」）が付くと、縮約されることがわかる。番号(6), (35)については、開母音/a/と閉母音/i/が接続して半開母音/ɛ/になる現象であり、92個見られる。この融合現象は母音衝突回避により、隣接する二つの音節が相互に作用し合って別の音を形成するという相互同化現象と言える。この現象は日本語においても、「いかない」→「いかなえ」「うるさい」→「うるせえ」のように存在する[3, 4]。番号(3), (8), (36), (39)は229個の頻度で現れ、動詞句の形態素境界でおこ

る母音融合現象である。番号(13)については、/ilagohanun/（「という」）から/go/が脱落して/ilahanun/になり、この/ilahanun/における/ha/の/h/が脱落すると同時に/ilanun/になる。さらに、/ilanun/における/u/は同じ子音/n/の間で脱落して/ilan/になる縮約現象である。番号(17)については、断定を表す助動詞/ida/に丁寧を表す終止語尾/əjo/が付いて/iəjo/になり、さらに/iəjo/は/iejo/になる。この/iejo/における/i/と/e/は二重母音化して一つの音節に融合されて/jejo/になる現象であり、18個数えられる。番号(9), (12), (18), (23), (25), (30)は名詞句における二重母音化現象で、129個観察される。

4. おわりに

以上のように、韓国の映画・テレビナリオなどの10個の会話資料に現れた39種の1502個の音韻縮約現象の用例を分類した。

母音の脱落：韓国語の10個の母音中、/i/、/u/、/u/のみの脱落が見られる。母音衝突回避によって開口度の小さい母音が開口度の大きい母音に吸収されていく。また、口の開きかたが小さい母音は脱落しやすい。

子音の脱落：音節の終声子音/h/、/s/の脱落が見れる。

音節の脱落：/i/の脱落のみが見られる。

融合：互いに接した二つの音節の中ほどに位置する音素が中間的な音に変化して一つの音節に融合される。さらに、いくつかの段階を経なければ復元できない現象が見れるが、母音融合及び脱落はお互いに相互関連を持ち、一定の順序によって縮約現象が起こることがわかった。

以上のように韓国語の縮約現象は、調音音声学的には脱落、融合であるが、生起の場所は形態音韻論的に見ると、形態素境界及び語彙内にあるものと分けられる。しかし、頻度の高い現象はほとんどが、動詞句や名詞句内の形態素境界で観察され、縮約規則の働く環境が統語・音韻的情報から決められていると思われる。同じ音韻縮約現象は日本語にも現れる[3, 4]。

参考文献

- [1] 岸田武夫：国語音韻変化の研究、武蔵野書院、p.79 (1984)
- [2] 日本音声学会：音声学大事典、三修社、p.408 (1976)
- [3] Young-sook Choi, Shigeru Sato and Hee-tay Pakh: Analysis of Phonological Reduction in Conversational Japanese, Proceedings of the First Seoul International Conference on Phonetic Sciences, pp.198-205 (1996)
- [4] 崔英淑：日本語と韓国語の韻律に現れる音韻・統語・談話現象の音響音声学的研究、東北大学博士論文 (1998)

表 1. 調査資料に現れた縮約形の頻度数

縮約形の種類		資料名	ケ	クム	ドク	ム ₁	ム ₂	三	ア	チュ	テ	ボ	総数
(1)	母音で終わる名詞 + /nun/ (나는 /nanun/ → 난 /nan/) (너는 /nənun/ → 넌 /nən/) (-이는 /-inun/ → -인 /-in/) (씨는 /s'inun/ → 쉰 /s'in/) (엄마는 /əmmənun/ → 엄마 /əmman/) (데는 /denun/ → 덴 /den/) (때는 /t'enun/ → 땀 /t'en/)		32 (13)	26 (11)	77 (29)	14 (8)	117 (51)	5 (3)	4 (1)	29 (9)	12 (5)	9 (5)	325 (135)
			(4)	(4)	(12)	(3)	(39)		(2)	(2)	(3)	(4)	(73)
			(3)	(1)	(1)		(6)			(2)	(1)		(14)
											(1)		(1)
			(12)	(10)	(35)	(3)	(21)	(2)	(1)	(16)	(2)		(112)
					(10)		(1)						(11)
(2)	오시지요 /oʃidʒijo/ → 오시죠 /oʃidʒo/		29	5	18	10	30	45	9	23	21	11	201
(3)	/o/(ㅓ) + /a/(ㅏ) → /wa/(ㅘ) (보아요 /boajo/ → 봐요 /bwajo/)		15	5	23	18	22	17	13	20	9	15	157
(4)	것이 /gəsi/ → 게 /ge/ (이것이 /igəsi/ → 이게 /ige/) (그것이 /kugəsi/ → 그게 /kuge/) (저것이 /tʃəgəsi/ → 저게 /tʃəge/)		12 (2)	9 (5)	24 (7)	3 (1)	17 (1)	7 (1)	7 (1)	5 (1)	9 (1)	7 (1)	100 (13)
													(13)
(5)	것은 /-gəsən/ → 겐 /-gən/ (이것은 /igəsən/ → 이게 /igən/) (그것은 /kugəsən/ → 그게 /kugən/) (저것은 /tʃəgəsən/ → 저겐 /tʃəgən/)		9 (1)	4 (1)	26 (5)	4 (1)	26 (1)	3 (1)	1 (1)	15 (6)	4 (1)	1 (1)	93 (17)
			(1)		(9)	(2)	(7)	(1)		(3)			(23)
(6)	아이 /ai/ → 애 /ɛ/		6	1	13	3	30	5	9	16	4	3	90
(7)	母音で終わる名詞 + /lul/ (나를 /nalul/ → 날 /nal/) (너를 /nəlul/ → 널 /nal/) (어디를 /ədilul/ → 어딜 /ədil/) (누구를 /nugulul/ → 누굴 /nugul/) (자네를 /dʒnelul/ → 자넬 /dʒnel/)		13 (4)	9 (3)	10 (3)	15 (10)	13 (4)	1 (1)	1	3	3 (1)	10 (4)	78 (30)
			(2)			(2)	(8)		(1)	(1)	(1)		(16)
(8)	/u/(ㅜ) + /ə/(ㅓ) → /wə/(ㅜㅓ) (가두어 /gadua/ → 가꿔 /gadwə/) (무엇 /muəs/ → 뭇 /mwəs/)		6 (1)	1	12	4	12	6	5	8	10	5	69 (1)
(9)	이야기 /ijagi/ → 얘기 /jegi/		6	1	4	3	8	5	12	8	6	10	63
(10)	母音で終わる助詞 + /nun/ (이번에는 /ibənenun/ → 이번엔 /ibənen/) (보다는 /bodanun/ → 보단 /bodan/) (예게는 /egenun/ → 예겐 /egen/) (부터는 /butənun/ → 부턴 /butən/) (앞으로는 /apulonun/ → 앞으론 /apulon/) (-에서는 /-esənun/ → -에선 /-esən/)		6 (5)	3 (2)	9 (3)	2 (1)	10 (7)	2 (1)	2 (1)	3	4 (3)	1 (1)	42 (24)
				(1)	(2)		(2)						(6)
(11)	것을 /-gəsəl/ → 겐 /-gəl/ (이것을 /igəsəl/ → 이게 /igəl/) (그것을 /kugəsəl/ → 그게 /kugəl/) (저것을 /tʃəgəsəl/ → 저겐 /tʃəgəl/)		3 (1)	2 (1)	8 (4)	3 (2)	7 (3)	3 (1)	2	4 (1)	1	3 (1)	36 (5)
			(2)				(1)		(1)				(10)
(12)	무엇을 /muəsəl/ → 뭇 /mwəl/		5	6	3	2	2	2	1	4	2	3	30
(13)	이라고하는 /iləgohanun/ → 이란 /ilan/		5	5		3	3		4	4	2	3	29

(14)	母音で終わる名詞 + /inde/ (친구인데 /tʰinguinde/ → 친구데 /tʰingunde/) (저인데요 /dʒəindejo/ → 전데요 /dʒəndejo/) (진짜인데 /dʒintʰainde/ → 진짜데 /dʒintʰande/ (언제인데 /əndʒeinde/ → 언젠데 /əndʒende/)	1 (1)	1 (1)	5 (3) (1)	6 (4) (1)	4 (2) (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	8 (4)	29 (15) (5) (2) (7)
(15)	놓아 /noha/ → 놔 /nwa/	3	2	5		6		3		1	3	23
(16)	아니야 /anija/ → 아냐 /anja/			5	1	7	1		2	1	4	21
(17)	/i/(ㅣ) + /e/(ㅔ) → /je/(ㅕ) (말이에요 /maliejo/ → 말예요 /maljejo/) (아니예요 /aniejo/ → 아녜요 /anjejo/)	3 (1) (2)		3 (3)	1 (1)	2 (1) (1)			1 (1)	2 (1) (1)	6 (2) (4)	18 (5) (13)
(18)	이 애 /iɛ/ → 애 /je/	1		3	1	6	1	1	3	1		17
(19)	요즈음 /jodzuum/ → 요즘 /jodzum/	3		3		3					6	15
(20)	말이야 /malija/ → 말야 /malja/	4		3		3				1	4	15
(21)	/i/(ㅣ) + /o/(ㅗ) → /jo/(ㅛ) 아니오 /ano/ → 아뇨 /anjo/	2		3		1	1	1	1	3	1	13
(22)	마음 /maum/ → 맘 /mam/	1	1	4							6	12
(23)	저 애 /dʒæ/ → 재 /dʒje/			1		3	1		2	1		8
(24)	갓 /gas/ → 거 /gə/	1		1							6	8
(25)	그 애 /kæ/ → 개 /kje/			4		3						7
(26)	내일 /neil/ → 널 /nel/			1						5	1	7
(27)	-에를 /-elul/ → -엘 /-el/	1		3							1	5
(28)	재미있는 /dʒemiissnun/ → 재밋는 /dʒemissnun/			2	2						1	5
(29)	제일 /dʒeil/ → 젤 /dʒel/			4								4
(30)	무엇입니까 /muəsimnika/ → 뭘니까 /mwəmnika/ (무엇인가 /muəsinga/ → 뭘가 /mwənga/)		1 (1)			1 (1)		1	1			4 (2)
(31)	처음 /tʰəum/ → 찰 /tʰəm/		1	1	1							3
(32)	나의 /nai/ → 내 /nɛ/			1						1	1	3
(33)	아까는 /ak'anun/ → 아깐 /ak'an/	1						1				2
(34)	저의 /dʒəi/ → 제 /dʒe/						1				1	2
(35)	요사이 /josai/ → 요새 /jose/									2		2
(36)	/i/(ㅣ) + /ə/(ㅐ) → /ja/(ㅓ) 모시어 /moʃia/ → 모셔 /moʃja/		1					1				2
(37)	다음 /daum/ → 담 /dam/								1			1
(38)	아무튼 /amutʰun/ → 암튼 /amtʰun/			1								1
(39)	/o/(ㅜ) + /i/(ㅣ) → /we/(ㅟ) 보이네요 /boinejo/ → 뵈네요 /bønejo/								1			1
縮約形の種類数		24	19	31	19	24	18	19	22	25	27	1502